

宮城県蔵王高等学校

新入生オリエンテーション合宿・報告

宮城県蔵王高等学校 山口 裕之



1. はじめに

宮城県蔵王高等学校は、宮城県の南西部、蔵王連峰から流れる松川のほとりにある創立7年目の新しい学校である。普通科単位制で各学年3クラス（120名）、全校生徒が360名という小規模校だ。平成11年4月に、宮城県教育委員会より「プロジェクトアドベンチャー調査研究指定校」に指定されて以来、県内のMAP（みやぎアドベンチャープログラム）事業の中心校として、日々の授業の中でMAPを実践している。

本校では毎年4月に、新入生を対象としたオリエンテーション合宿を行っている。新しい高校生活、新しいクラスメイトに早く慣れることを主なねらいとし、活動メニューにはMAPのエッセンスが随所にちりばめられている。合宿前はぎこちなさの残るクラスの雰囲気、合宿後は一変してクラスのあちこちに友達の輪ができるようになる。今年度の合宿の様子と生徒たちの変容を、簡単に報告する。

2. 新入生オリエンテーション合宿の概要

1) 目的

- (1) 自分を知り、友人を知る。
- (2) 集団生活のルールや約束について考え、実践する。

2) 期日 平成15年4月24日（木）～25日（金）

3) 場所 財団法人 福島県相馬海浜自然の家
福島県相馬市磯部字大洲38-3
電話 0244-33-5224 FAX 0224-33-5225

4) 参加者 生徒120名 引率9名 合計129名

5) 日程

1日目：4月24日（木）		2日目：4月25日（金）	
8:30	B & G海洋センター駐車場集合	6:00	起床・身支度
9:00	学校（B & G）出発	6:30	■ 5 ■ ソロ （林の中を一人で散策・思索）
10:30	自然の家到着	7:30	朝食 ※
10:40	入所の集い・オリエンテーション	8:30	清掃・荷物整理
11:20	■ 1 ■ MAP活動	9:00	■ 6 ■ 作文 （高校生活で大切にすること）
12:20	昼食	9:40	■ 7 ■ ハイキング～昼食
13:20	■ 2 ■ スコアオリエンテーリング （班長・室長連絡会）	12:30	退所準備
16:00	■ 3 ■ スタンツ準備	12:45	作文発表（各クラス2名）
17:00	夕食 ※	13:15	退所の集い
18:30	■ 4 ■ キャンドルファイヤー （スタンツ・親から子への手紙）	13:30	退所
20:30	入浴	15:00	学校到着・解散
21:30	反省会	雨天時代替メニュー（実施しなかった）	
22:00	就寝	■ A ■	体育館での運動＋作品づくり （海浜クラフト、キーホルダー、貝の飾り等）
		■ B ■	クラス対抗スポーツ大会 （長縄跳び、球技等）

※食事はバイキング形式。席が120席なので、全員一緒には無理。1日目の夕食は17:00～18:30の間に、活動班ごとに時間を見つけて食事をする。（余った時間はスタンツ準備や休憩）。2日目の朝食は7:30～8:30の間に活動班ごとに取る。

3. 活動内容および活動の様子

野外での活動を中心に組み立てた日程だったが、ちょうど低気圧がやってきて、大幅な日程変更を覚悟した。しかし、雨と雨の間を縫って奇跡的に全日程予定通り消化することができた。以下、各活動の内容及び生徒の活動の様子を、写真とともに紹介する。

1) MAP活動

この合宿では、男女混合10名ずつの活動班で、風呂と就寝以外のほとんどすべての日程を過ごした。MAP活動はその一番最初の活動で、活動班2班（20名）を一グループとし、そこにファシリテーターとして教員が1～2名つい





て、約1時間、グループで体を動かす活動を行った。

活動のねらいは「活動班の仲間の名前を覚えるとともに、互いの心の壁をさげること」。それぞれのファシリテーターが、グループの状況を見ていくつかのアクティビティを提案して活動を進めた。場所は、グループごとに自然の家周辺の好きな場所で。あるグループは海沿いの運動場で輪を作り、またあるグループは林の中のキャンプサイトで輪を作った。どのグループも、体が温まるとともに緊張もほぐれていき、笑い声と笑顔に満ちた1時間を過ごした（各班の活動内容を表にまとめた）。MAP活動のあとは、そのまま活動班ごとに好きな場所で昼食を食べた。

Yグループ	Aグループ	THグループ
1. ストレッチ 2. ストップアンドゴー 3. ペアパン（結んで開いて） 4. ビート（制限なし→声なし→声&目なし） 5. 鬼ごっこ（鬼複数） 6. 人間知恵の輪（ロープ使用） 7. フープリレー競争 8. ピンポンパンゲーム 9. 解散の儀式	1. ストレッチ 2. ストップアンドゴー 3. キャッチ 4. フープリレー 5. 頭星人・おしり星人 6. 誕生日ラインナップ 7. パントンパンパン 8. 鬼ごっこ（鬼複数） 9. ビート（二人→全員）	1. ストレッチ 2. あっち向いてホイ 3. 仲間探し 4. キャッチ 5. 鬼ごっこ（鬼複数） 6. 頭星人・おしり星人 7. ビート
STグループ	Nグループ	Kグループ
1. ストレッチ 2. ミラーストレッチ 3. 鬼ごっこ（鬼複数） 4. 頭星人・おしり星人 5. 名前インパルス 6. インパルス	1. 輪になって自己紹介 2. ストップアンドゴー 3. 引き相撲トーナメント式 4. ラインナップ 5. パントンパンパン 6. 頭星人・おしり星人	1. ビート 2. キャッチ 3. インパルス 4. 頭星人・おしり星人 5. サムライ 6. フープリレー

2) スコアオリエンテーリング

午後のメイン・イベントはスコア・オリエンテーリング。林の中に設定されたポストを時間内に多くまわるという活動で、ポストをまわることで得られる点数（スコア）が、ポストごとに違うため、どこをどうまわるかという作戦の善し悪しで得点に差が出るしくみになっている。



そのため、一般的なオリエンテーリングよりグループ内の話し合いが必要になる。

ややルールが複雑なため、生徒たちが理解してルール通りできるか心配したが、各班とも一生懸命走ったり歩いたりして、ポスト探しに夢中になっていた。写真が白黒なのが残念だが、早春の林の中での活動はとても気持ちよさそうだった。

3) キャンドルファイヤー

夕食後に、体育館に集まってキャンドルファイヤーを行った。お約束の火の神・火の女神によるキャンドルへの点火の儀式が厳かに執り行われた後、各班ごとの出し物（スタンツ）を行った。各班5分の持ち時間で、みんなの前で出し物をする。準備の時間が短かったために各班それぞれ苦勞していたが、ジェスチャークイズ、ブレイクダンス、なぞなぞなど、全員を巻き込んで楽しい時間を作りあげていた。

スタンツで盛り上がったあと、各活動班で輪になって座り、親から子への手紙を読んだ。この手紙は、入学式の日に関年主任から保護者をお願いして書いていただいたもの。「こどもが生まれたときの親の気持ちやこどもの生い立ち、これから高校生活を送るに当たってのエール」を書いてくださいとお願いした。手紙は封をされているものが多かったので、



ほとんどの生徒は、この時間に初めて読んだと思われる。最初は少し気恥ずかしいという表情も見られたが、自分の親からの手紙を読み始めると、どの生徒も真剣な表情になり、中にはこらえきれずに涙をこぼす生徒も少なくなかった。

実はこのキャンドルファイヤーの中で、ひとつの問題が発生していた。この問題については後であらためて述べるが、キャンドルファイヤーの最後に、教師から生徒たちにこの時間に問題が発生したことを伝え、それを自分の問題として考えてほしいという投げかけを行った。

4) ソロ～作文

二日目の最初の活動は朝食前、朝 6:30 からの「ソロ」。これは、自然の中に一人で身を置いて、心に浮かぶことを素直に受け止めるという活動である。ネイティブアメリカンのビジョン・クエストという儀礼を参考にした。

- ・この自然のなかで自分が気に入った場所を見つける
- ・地面に○を書く。
- ・そこに入って座る。
- ・目を閉じ、何もしゃべらずに、自然にゆだねる。
- ・自分のこれまでのことがいろいろ頭に浮かんでくる。それを受け止める。
- ・時間になったら、そのエリアから「脱出」し、ここに戻ってくる。

ただ、自然の中で過ごしてこいと言うだけでは、生徒たちにこちらの願いが伝わらないと考え、ソロの時間に心に浮かんだことを手がかりに作文を書かせることにした。作文のテーマは「高校生活で大切にしたいこと」。しゃべらない・危険な場所に行かない・時間になったら戻ってくるという3つの約束をして、生徒たちを林に向かわせた。

正直、生徒たちは一つ目の約束「しゃべらない」ということを守らないのではないかと予想していた。しかし、その予想は間違っていた。「さあ、始め！」の声で動き出した生徒たちは、本当にひと言もしゃべらずに、一人一人自分の場所を探しに四方八方に散っていった。ときどき林の中の様子をのぞきに行くと、生徒たちはそれぞれ好きな場所に腰掛けて、じっと動かずに時を過ごしていた。1時間という時間設定は、生徒たちには長すぎるかとも思われたが、帰ってきた生徒たちはみな満ち足りたような表情だった。中には、もっと長い時間のほうがよかったと言う生徒もいた。生徒たちがソロでどんな時間を過ごしたかは、最後に掲載する作文の抜粋から読みとっていただきたい。

5) ハイキング

2日間に渡る野外での活動の最後は、海沿いコースのハイキング。特に指示は出さなかったが、私たちの思いとしては、作文で書いたことやソロで考えたことなどを、互いに話したりして二日間の余韻をかみしめながら、自然の中をゆっくり散歩してほしいというねらいがあった。



1日目に問題が発生した二つの班も、この活動ではその問題を克服し、あるいは克服しようとする試みをし、二日間のまとめとして各班意味のある時間を過ごしたようだった。

6) 作文発表

退所式を目前に控えた最後の活動が、作文発表。講堂に全員整列して、午前中に書いた作文の中から、これはいいと思われる作文を、各クラス3～4名ずつ選び、発表してもらった。当初は各クラス2名の予定だったが、生徒たちの書いた作文のクオリティーが高かったため、人数を増やすことにした。

作文発表を一人で行うというのはとてもハイレベルのチャレンジである。そこで、発表

者の気持ちを和らげるため、発表者は一人の発表補助者を指名できることにして、その補助者にはマイクを持ってもらい、発表者は補助者の助けと応援を得て発表するという形にした。

作文はとても良かった。二日間の活動から、私たち教員が期待した以上のことを生徒たちは獲得していたことが分かった。この作文が私たちが読むことを前提に書かれたものであることを考えても、聞いていて涙がにじむのを押さえることはできなかった。後ろで発表を聞いていた教員の何人かは涙ぐんでいたし、ある教員はもう涙がこぼれちゃっていた。生徒たちは、それよりはちょっと冷静なようだったが…。

4. 生徒の変容（問題の発生と解決）

キャンドルファイヤーの中でひとつの問題が発生した。それは、班の中にうまく入れなかった生徒が、その場に居られなくなり、体育館から出て行ってしまったという問題である。実は同じような問題がもう一つの活動班で発生した。骨折のために松葉杖をついていた生徒が、活動中に同じ班の他の生徒に置いて行かれて一人になってしまうということが起こっていた。似たような問題は他にも発生したかもしれないが、明確な形で現れたのがこの2つなので、この件について、その後の推移を述べる。

1) 問題の発生

二人の生徒が、それぞれ自分の所属する班の輪からはずされるという問題が発生した。

- ・骨折のため松葉杖を使っていた生徒
- ・仲間はずれで情報がまったく伝わらなくなった生徒

2) 教員からのメッセージ（その1）

夜の楽しい活動（スタンプ）のあと、親からの手紙を読んでしっとりした場面のあとで、全体にこんなメッセージを出した。

みんなとても楽しかったね。私たちも楽しかった。楽しい時間をありがとう。ところで、今回の合宿のねらいのひとつは「自分を知り、友人を知る」ということだったよね。みんな、同じ班の他の人のことが見えていたかな？他の人もみんな自分と同じように楽しんでいただろうか。もしかして自分だけが楽しんでなかったかな？

実は、このキャンドルファイヤーの時間に、つらくなってこの場から立ち去った仲間がいます。自分がとても楽しい時間を過ごしているとき、つらい思いをしている仲間がいたとしたら、その自分の楽しい気持ちって何なんだろう？このあと、今日の1日を振り返る時間があります。そこで、ぜひこの点も含めて班でいろいろ話し合ってもらえると嬉しいです。

そして問題が発生した班の生徒を集めて、次のような働きかけをした。

- ・どうしてその子がつらくなってしまったか想像できる？
- ・この班の今日の状況はどんなだった？
- ・これからどうしたい？

3) 教員からのメッセージ (その2)

二日目の朝、ソロの活動の説明の最後に、次のようなたとえ話をし、友達のいろいろな面を見ると、今までとは違った付き合い方ができるかもしれないよという提案を行った。

インドに3人の盲目のお坊さんがいました。あるとき、3人で集まって象について語り合いました。一人のお坊さんは、「象は大きなうちわのようなものです」といいました。別なお坊さんは「いやいや、象は太い柱のようなものです」といいました。3人目のお坊さんは、「いやいや、象は大きなほうきのようなものです」といいました。お互いに自分の意見が正しいと譲らなかったで、話し合いはいつまでも平行線をたどりました。

一人目のお坊さんは、耳をさわりました。二人目のお坊さんは足をさわりました。三人目のお坊さんは、どこをさわったか分かりますか？みんな正しい意見を述べているのです。ただ、さわった場所がそれぞれ一カ所だけだったので、他の人が述べたことを正しいと思えなかったのです。

物事を一面からだけ見ていると、その全体の姿は見えない。私たちは人の欠点やかわった点はよく見えるもの。でも人には必ず別な面がある。その人のよいところを探してあげられる人が、本当の友ではないだろうか？

4) その後の二人の様子

仲間の輪からはずされて、キャンドルファイヤーのとき体育館にいれなくなってしまった生徒は、その後の活動では、班の他の生徒たちと一緒に、笑顔で活動に参加できるようになった。また、松葉杖の生徒は、ハイキングのときにもう一度置いて行かれそうになり、そこで担任から「こういう状況だけど、みんなはどうしたいの？」という働きかけを行った。その結果、松林をこえて海まで、その生徒の速さに合わせて、みんな一緒に歩いていったようだった。ハイキングの後の食事も、みんなと一緒に戻ってきて、ちょっと遅い昼食を全員で楽しんだ。

この二つの班の生徒が、この問題をどんなふうと感じ、どう乗り越えたのか、次の生徒の作文の中に出てくるので、そちらを合わせて読んでいただきたい。

5. 生徒の作文より (抜粋)

私が高校生活で大切にしたいことは、友達と友達との友情です。なぜかという、今日ソロで林の中を歩いていて気づきました。今まで一緒だった友達と離れ、自分一人で林の中を歩いているときの気持ちは、とても淋しくせつない気持ちでした。友達と一緒に行動しているときは、おしゃべりや相談もできたけれど、いざ一人になってみると、話し相手もない相談相手もないなかで行動してみると、とても不安になるし、一人になっているという恐怖感があります。今日のソロでは、普段感じていないことが体験できた日だったように思います。(1組女子)

自分はこの合宿の中で、色々な事を学びました。スコアオリエンテーリングなどを通して、友達と協力することも学びました。で、やっぱり友達は大切だと思った。この合宿の中で、気が合わない人と付き合う事も学んだ。今までの自分は、気の合わないやつとは全然付き合いを持たず、さけてきました。だって、いっしょに居てつかれるし…。でもこれか

らは、みんなと同じように接したいと思った。だから勉強も部活も大事だけど、一番大切にしたいのは友達です。(2組男子；仲間はずれ問題の起こった班の生徒)

私がこれからの高校生活で大切にしようと思ったことは、友達を想う心です。

自分のことだけを考えて、自己中心的なことをするのではなく、第一に友達のことを考えて、友達にとって良いことができるようなことをして、その友達を想う心をずっと大切にしたいと思いました。

こういうことを思ったのは、1日目の合宿の時、私はけがをしている人の役に立つことができなかつたからです。私は、けがをしている人の気持ちを考えず、その人をみかけても、「大丈夫？」と声をかけることしかできませんでした。そして、その人が泣いていたときも声をかけることしかできず、何もできない自分が嫌で、今でもそのことを後悔しています。だからこれからは、よく相手の気持ちを考えて、友達をずっとずっと、大切にしたいと思いました。(3組女子；松葉杖の生徒と同じ班)

ぼくは、この合宿を通して目標だった友達を作るという事が出来ました。まっばづえを使っていると、学校のろう下でも、合宿中の館内の移動もとてもつかれます。けど周りのみんなにはげまされてがんばる事が出来ました。そのおかげでたくさんの人達と友達になる事も出来ました。食事の時、食事を運んでもらったり、部屋のベッドなどを用意してくれた人もいました。僕は、とてもうれしかったです。あまり人と話す事が苦手だったけどこの合宿でいろんな人と話す事が出来ました。

しかし僕は、みんなが楽しく遊んでいる姿をベンチなどから見ていたとき感じた事があります。それは、僕も一緒に遊べたら良かったなあ、足にヒビが入らなかつたらなあなどという感じでした。そして僕は思いました。僕の高校生活で大切にしたいことは、ケガをしないようにすること、友達を大切にすることです。1つ目のケガをしないようにするという事は、みんなにめいわくがかかってしまうからです。2つ目の友達を大切にすることは、自分が周りからやさしくされたことを逆に僕が周りにやさしくすることです。そのためにもはやく足をなおそうと思います。(3組男子；松葉杖の本人)

先ほどのソロ活動で僕は海に行きました。ゆっくりと林の中を歩いて鳥の鳴き声を聞いたり、つくしをみつけたりして自然を感じつつ海に行きました。海につくとほかにもたくさん人がいましたが、一緒に来た友達と別れ砂浜に一人で座り考え事を始めました。

色々な事が頭をよぎりました。昨日のスコアオリエンテーリングで汗をかきかき班の人達と歩いた事、スタンプでほとんどの進行を僕がした事、さらには中学校の時の修学旅行の事、中学の先生方の事、本当に色々な事が頭をよぎり、すぐ時間がたちました。

そして、僕の頭の中に三つの言葉が浮かんできました。「友達」と「時間」そして「思い出」です。(3組男子)